

社会貢献活動の基本的な考え方

当社およびグループ各社は、金融グループとしての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。一方で、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための『良き企業市民』としての活動も欠かせません。当社およびグループ各社は、『良き企業市民』として社会的責任を果たすべくさまざまな社会貢献活動を行います。

社会貢献活動方針

当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての役割を認識し、豊かで持続可能な社会の実現を目指し社会貢献活動を行います。この社会貢献活動を積極的に行うため、企業で活動を企画・実施するとともに、社員のボランティア活動を支援します。

社会貢献活動の柱

当社およびグループ各社は、以下の4つの分野を社会貢献活動の柱としています。

福祉活動、地域・国際社会、環境活動、文化・芸術・教育

福祉活動

●書き損じはがきほか、収集ボランティアの実施

当社では、グループ各社の社員から「書き損じはがき」を募集し、ボランティア団体に寄贈しています。また、三井住友銀行では「未使用テレホンカード」、三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・三井住友カード・セディナ・SMBCコンシューマーファイナンスでは「ペットボトルのキャップ」、SMBC日興証券・SMBCフレンド証券・三井住友カード・SMBCコンシューマーファイナンスでは「使用済み切手」を社内で収集し、寄贈しています。また、三井住友銀行・SMBCフレンド証券では、株主優待品の寄贈も行っています。

●団体献血の開催

三井住友銀行・SMBC日興証券・三井住友カード・SMBCコンシューマーファイナンスでは、職場での団体献血を実施しています。平成24年度は、4社合計で796人が参加しました。

●寄付型自動販売機の設置、福祉団体販売の実施

三井住友銀行では、飲料を購入すると福祉団体に寄付が行われる仕組みの自動販売機を本店ビルに設置しています。また、障がい者就労施設の製品販売を継続的に行っていきます。

地域・国際社会

●三井住友銀行ボランティア基金

三井住友銀行では、有志役職員の給与から毎月一律100円を天引きする積立募金に、1万1千名超が加入しています(平成25年5月現在)。寄付先は、有志従業員や専門機関から推薦された団体を、有識者と有志従業員で構成する審査会において審議し、決定しています。平成24年度は、

有志従業員がボランティア活動で支援する団体や、国内外で経済的困難に関する社会課題等の解決に取り組む34団体への寄付を実施しました。

<海外>

カンボジアにおける女性と子どもへの識字教室、タイの難民キャンプでの図書館事業、ザンビアでのエイズ孤児就学支援、等

<国内>

児童虐待を受けた子どもへのカウンセリング事業、子どものホスピス施設の補修、ホームレス状態の人への医療支援、視覚障がいのある方の自立支援、等

グループ会社のさくらケーシーエスでも、役職員の約8割以上に当たる935名がボランティア基金に加入し(平成25年5月現在)、福祉や環境活動への寄付活動を行っています。



●大規模災害発生時の義援金口座の開設、寄付等

三井住友銀行は、国内外の大規模災害発生時に、振込手数料無料の口座を開設してお客さまの募金を受け付けるとともに、行内、グループ各社役職員にも呼びかけています。平成24年度は、九州北部豪雨やフィリピン南部台風被害に対応するとともに、東日本大震災の義援金も継続的に受け付けています。また、米国ハリケーン「サンディ」の被害では、三井住友銀行、SMBC日興証券より寄付を行いました。

●SMBCプロボノプロジェクト

社会人がビジネススキルや職務経験を活かしてボランティアを行う「プロボノ活動」に取り組んでいます。平成24年度は、金融機関らしさを活かした新たな取り組みとして「SMBCプロボノプロジェクト」を立ち上げました。こ

れは、有志従業員によるプロボノチームが、寄付金や経費の管理に必要な帳票や事務フローの整備、寄付者の情報整理やデータベースの整備等、NPOの業務基盤を強化するためのアドバイスを行うもので、東京都内で子育て支援に取り組む3つのNPOを支援しました。関西地域においては、平成23年度より地域経済の活性化や、社会的課題の解決を目指すNPOの支援を行っており、平成24年度も3つのNPO法人を、有志従業員の参加と協賛により支援しました。

●ボランティアスタッフYUIの活動

三井住友銀行では、従業員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。ろう学校での交流会、海岸清掃への継続的な参加、地域の高齢者施設への定期訪問などを継続的に行っています。

●全国拠点における地域貢献活動

三井住友銀行では、全国の営業拠点が自ら企画し地域社会に貢献する活動を推進しており、銀行見学会、支店周辺や野外での清掃活動、地域のイベントへの参加などを行っています。SMBC日興証券でも、地域の清掃活動やボランティア活動に積極的に参加しています。

●お客さまサービスプラザの展開

SMBCコンシューマーファイナンスは、地域のコミュニケーション拠点として社会やお客さまのニーズを感じ取り、それらにお応えしていくための地域に根ざした活動を行っています。

家計診断などのコンサルティングサービスの提供や、地域の方々や学生に向けたお金に関する啓発活動・金銭教育活動、また地域の活性化に向けた積極的な取り組みを通して、社会とともに持続的に発展していくことを目指しています。

●外国コイン募金活動

三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。同行の国内本支店・出張所の店頭に「外国コイン募金箱」を設置して協力を呼びかけ、集まった募金は各国通貨別に仕分けし、ユニセフに送っています。

●商品・サービスを通じた寄付支援

三井住友銀行では、普通預金の税引後利息を寄付する「ユニセフ愛の口座」を取り扱っており、同行でもお客さまと同額の寄付をしています。

三井住友カードは、ワールドプレゼントの景品を通じ、VJAグループ各社カード会員から寄せられた寄付金をユニセフ、日本赤十字社、ユネスコ、WWFジャパン、WFPIに寄付し、あわせて同社からもユニセフへの寄付を実施しました。また、クレジットカードを通じた寄付支援として、インターネット募金の受付や各種社会貢献型カードを発行し、利用額の一部を寄付・還元しています。

セディナでは、“子どもたちの夢を形にする”をコンセプトとする「アトムカード」等の社会貢献型カードを発行し、利用額の一部を児童養護施設等に寄付しています。またポイント交換を通じた寄付やインターネット募金の受付も行っていきます。

●TABLE FOR TWOへの参加

三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・三井住友カードでは、社員食堂でヘルシーメニュー1食を購入すると開発途上国の学校給食1食分がNPO法人「TABLE FOR TWO International」に寄付される取り組みを、本店等で実施しています。このうち三井住友銀行では、平成24年度、全国の支店において実施できる体制を整備しました。また、三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・SMBCフレンド証券・三井住友カードでは、飲料を購入すると同団体に寄付される仕組みの自動販売機も設置しています。

●財団を通じた取り組み

米国を本拠とするSMBC GLOBAL FOUNDATIONは、平成6年よりアジア各国で学ぶ大学生6,000名超に奨学金を支給しています。またニューヨーク市ハーレムの高校が主催する日本研修旅行の支援、学校の美化活動への三井住友銀行従業員によるボランティア参加、同従業員が行う寄付への財団からの同額寄付等を実施しています。

三井住友銀行国際協力財団は、開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、平成2年の設立当初より、アジアから日本の大学院へ進学した留学生、毎年7~8名を対象に奨学金を支給しています。また、開発途上国の経済発展に資する活動を行っている研究機関・研究者への助成を行っています。

環境活動

●環境保全活動への参加

当社では「SMFGクリーンアップデー」を定め、平成24年度はグループ各社の有志役員とその家族約350名が、荒川(東京都)、須磨海岸(兵庫県)の2会場で清掃活動に参加しました。



みなと銀行では須磨海岸で独自に海岸清掃活動を開催し、58名が参加したほか、関西アーバン銀行では、滋賀県の「琵琶湖岸」清掃活動に参加しました。日本総合研究所では、大阪マラソン開催に際して行われた「大阪マラソン「グリーンUP」作戦」に参加しました。SMBC日興証券では、平成22年秋以降、環境保全・社会貢献活動強化期間として「Green Week」を設け、平成24年度は清掃活動やペットボ

トルのキャップ等の収集活動に社員と家族延べ7,265名が参加しました。三井住友ファイナンス&リース・セディナ・SMBCコンシューマーファイナンスでも事業所周辺などで継続的な清掃活動等を行っています。

●SMBC環境プログラム C.C.C富良野自然塾

三井住友銀行は、脚本家の倉本聰氏が北海道の富良野で実施する、閉鎖されたゴルフ場の跡地を元の森に回復させる活動と、五感で自然を体感する環境教育プログラムを支援しています。

●「環境フォト・コンテスト」への協賛

三井住友ファイナンス&リースは、環境問題の大切さを伝え行動を喚起することを目的とする写真コンテストに協賛し、「三井住友ファイナンス&リース賞」を贈呈しています。

●子どもエコクラブ全国フェスティバルへの協賛

三井住友銀行は、(財)日本環境協会が主催する「子どもエコクラブ全国フェスティバル2013」に協賛し、ブースを出展しました。

文化・芸術・教育

●チャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」開催



三井住友銀行では、平成18年度より毎年、有志従業員演奏によるチャリティーコンサートを開催し、お客さまを無料でご招待しています。会場では募金受付や社員の手作り品のチャリティー販売などを行っています。平成25年度は、東日本大震災被災地およびカンボジア・ベトナムの

海外拠点における取り組み

当社グループでは海外拠点において、その国や地域の課題、文化に即した独自の取り組みを展開するほか、ボランティア基金でもNPO・NGOへの寄付を通じて、開発途上国の貧困問題解決、教育や医療支援、女性の地位向上などに資するプロジェクトを支援しています。

- ・三井住友銀行(中国)有限公司における、浙江大學、中山大學、蘇州大學、華東師範大學、上海外國語大學、天津外國語大學での奨学金制度
- ・三井住友銀行(中国)有限公司における、上海、北京、蘇州、天津、広州での植樹活動
- ・三井住友銀行香港支店における、アジアの若手音楽家によるオーケストラへの寄付
- ・三井住友銀行ソウル支店における、「全国学生日本語演劇大会」への寄付を通じた、韓国の学生が日本語を習得し日本文化への理解を深める場の提供
- ・三井住友銀行ハノイ支店における、インターナショナルスクールの学生への就労体験機会の提供
- ・三井住友銀行シドニー支店における、拠点内CSR委員会を中心とした、子ども、難病、難民、震災等にかかわるボランティア活動並びに寄付活動への参加
- ・マニファクチャラーズ銀行における、心臓病予防啓蒙イベントへの参加および有志従業員による主催団体への寄付
- ・欧州三井住友銀行における、ボランティア休暇を利用した社員の活動、行内寄付基金によるチャリティー団体への寄付、また、同基金のマッチングギフト制度(従業員の寄付に対して銀行が一定額を拠出する制度)を利用したチャリティー団体への寄付
- ・欧州三井住友銀行における、ワークエクスペリエンスプログラム(学生への就労体験プログラム)の実施を通じた、学生や恵まれない環境下に置かれた若者等への就労体験およびビジネススキル習得の機会提供

子どもたちを支援するとともに、東北から東京都内に避難されている方々もご招待しました。

●営業店でのロビーコンサートの実施

三井住友銀行の本店・大阪本店や、関西アーバン銀行の本店・びわこ本部では、一般の方に無料で鑑賞いただけるロビーコンサートを実施しています。

●文化芸術事業の支援

SMBCフレンド証券では、山種美術館の特別展への協賛を通じて、文化・芸術活動を支援しています。

三井住友カードでは、国立劇場・国立演芸場への緞帳寄贈や子ども歌舞伎への公演協賛を通じ、古典芸能振興と人材育成を支援しています。

三井住友銀行・SMBC日興証券・セディナでは、クラシックコンサートへの協賛を通じて、音楽文化の振興を支援しています。

●金融経済教育への取り組み

三井住友銀行・SMBC日興証券では、小学生向けの職業体験イベントを開催しています。三井住友銀行では、「夏休み！子ども銀行たんけん隊」に加えて、各支店で随時小学生から高校生まで職場見学の受け入れを行っているほか、小学生向け書籍「銀行のひみつ」の発刊、お仕事体験タウン「キッズニア」への協賛、中学生向けの経済教育プログラム「品川ファイナンスパーク」への協力など、幅広く金融経済教育活動に取り組んでいます。SMBCコンシューマーファイナンスでは、主にお客さまサービスプラザが中心となり、小学生を対象にお金の成り立ちや役割について学ぶ「カードゲーム」や、学生・社会人を対象とした金融にかかわるセミナーを実施しており、平成24年度は、合計2,137回開催しました。関西アーバン銀行では、小学生を対象とした「銀行見学会」を夏休みに開催しており、中学生を対象とした「職場体験学習」の受け入れも実施しています。三井住友銀行・三井住友ファイナンス&リース・SMBC日興証券・三井住友カード・日本総合研究所・みなど銀行でも、大学への講師派遣等を行っています。

少子・高齢化に向けた取り組み

●支店におけるユニバーサルデザイン・ユニバーサルサービスの導入

三井住友銀行・みなと銀行・関西アーバン銀行では、さまざまなお客さまのご来店に対応するため、以下のような取り組みを行っています。なお、三井住友銀行では、平成25年3月に、国内の支店ATM、店舗外ATMの全台について、視覚障がい者対応ATMへの切り替えを完了しました。

- ・視覚障がい者対応ATMの設置
- ・筆談ボード、コミュニケーションボードの設置
- ・自動体外式除細動器(AED)の設置*
- ・助聴器、拡聴器の店内設置(三井住友銀行、みなと銀行)
- ・杖ホルダー(三井住友銀行、みなと銀行)設置台付き拡大鏡、スポンジハンドル(三井住友銀行)の設置
- ・高齢者や身体の不自由な方向への優先座席の設置(みなと銀行)等

*自動体外式除細動器(AED)はSMBC日興証券、SMBCフレンド証券でも設置をしています。

また、三井住友銀行やみなと銀行では、高齢者や身体の不自由な方に関する知識・サポート方法を習得したスタッフを各店に配置しています。

●超高齢社会を見据えたビジネス展開に向けて

三井住友銀行では、今後増加が見込まれる高齢者向け賃貸住宅の普及を支援するため、担保管理等の取り扱い要領の明確化を行い、平成25年5月には有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅を融資対象不動産とする専用ローン(介護施設提携ローン)の取り扱いを開始しました。

今後も社会のニーズにあわせ、高齢者が安心していきいきと生活できる仕組みづくりを支援していきたいと考えています。

●「少子化問題への対応」をテーマとしたステークホルダーダイアログの実施

当社では平成25年1月、大きな社会問題となっている少子化について、社内向けの制度整備と同時に、企業の外に向かって何らかの働きかけを行うことも重要ではないか、という問題意識をもとに、有識者の皆さまからご意見をいただき、課題と対応策を議論しました。

東日本大震災復興支援活動

●被災地支援ボランティアの実施

三井住友銀行では平成23年4月に「震災復興特別休暇」を創設し、同年5月より役職員による定期的な被災地支援ボランティアを開始しました。宮城県の亘理町や石巻市、東松島市を中心に継続して取り組んでおり、平成23年度、24年度累計で延べ約280名が参加しています。平成24年8月には、従業員の家族も参加するプログラムを開催し、

延べ約30家族、約90名が参加しました。

SMBC日興証券でも、平成23年4月にボランティア休暇制度を導入したことに加え、同年7月には平成23年度新入社員350名および引率の役職員が被災地支援ボランティアを行いました。また、翌年の平成24年も新入社員280名と引率の役職員が引き続き、東日本大震災の被災地での支援活動を行いました。



●お客さまサービスプラザスタッフによる被災地支援

SMBCコンシューマーファイナンスでは、被災地に拠点をご来店のお客さまサービスプラザ(以下SP)が、被災地を狙った詐欺を未然に防ぐための「金銭啓発セミナー」を仮設住宅集会所などで開催しました。また、ほかの全国18拠点のSPにおいては、被災地支援活動団体へイベントスペースを提供し、活動支援を行っています。

●ポイント交換景品を活用した寄付活動の実施

三井住友カード・セディナでは、クレジットカードを通じた義援金寄付受け付けのほか、カード使用によって蓄積されるポイントによる、被災地への募金を行いました。

●東日本大震災支援募金

三井住友銀行では、「東日本大震災支援募金」として、被災地支援の取り組みに限定して活用される毎月400円の給与天引き募金を行っています。平成24年度は、有志役職員によるボランティア活動において連携した、地域の災害ボランティアセンターやNPO法人に対し、本支援募金と同行マッチングギフトをあわせた寄付を行いました。

●被災地支援 楽器寄贈

三井住友カードでは、宮城県気仙沼市で活動する小中学生で結成されたジャズオーケストラ「スウィングドルフィンズ」に、以前社内クラブで使用していた楽器15台を寄贈しました。

●都内避難者との交流ボランティアの開催

三井住友銀行では、ボランティアスタッフ[YUI]のメンバーが、都内に避難されている被災者の方々との交流会を定期的で開催しています。

●「チャリティー映画上映会」の開催

関西アーバン銀行では、被災地支援の一環として「チャリティー映画上映会」を開催し、当日参加者からの募金と参加者数に見合う銀行からの拠出金を、福島県・岩手県・宮城県の3県に寄付しました。